



碧南ロータリークラブ週報

第2533回例会 平成23年2月2日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp



■ 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優

● 齊 唱

国歌「君が代」
 ロータリーソング「奉仕の理想」

● 四つのテスト唱和

● 本日のメニュー
 和風弁当 大正館

新入会員入会式

新入会員 寺尾正史君
 新入会員 寺尾政記君



新入会員 寺尾正史君



新入会員 寺尾政記君

感謝状贈呈

ロータリー財団寄附

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 石川春久君
 マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 犬塚敦統君
 ポール・ハリス・フェロー 杉浦栄次君
 ポール・ハリス・フェロー 永坂誠司君



石川春久君



犬塚敦統君



杉浦栄次君



永坂誠司君

会長挨拶

～美しい暦のことばより～

二十四節季七十二候の最後をかざります「鶏始乳（ニワトリ・ハジメテ・トヤニツク）」という「暦のことば」。鶏が小屋で卵を産みはじめる時期、別な言い方をすれば、鶏が新しい命を産むという意味でございます。

鶏は本来、冬には卵を産まず、日照時間が長くなると産みはじめるのだそうです。

太古から夜明けを告げる鳥として尊ばれてきた鶏。本来なら、太陽を呼ぶ高らかな鳴き声が聞こえてきそうな時期ですが、おりからの鶏も災難続き。H5型の強毒性インフルエンザに感染し、殺処分らしい鳴き声が聞こえてきます。養鶏に関連されている皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

そんな中、2月4日は「立春」です。「立春」の日に天気予報をご覧になるとわかると思いますが、決まり文句のように「暦の上では春ですが、まだまだ風も冷たく…」というセリフが聞か



奥田雪雄会長

れてくると思います。

本当に、こんな寒い日をなぜ春としたのでしょうか。

かつては、一年のはじまりは「冬至」を基準に考えられてきました。「冬至」は、一年で一番昼が短い日。この日から一日一日、昼の時間が長くなってまいります。ところが、気温はまだまだ下がってまいります。

そこで、気温が最も低くなる「立春」の日に近い新月の日を一年のスタートとしたのだそうです。

一番たくさん希望がもてる日を一年の出発の日にしたい…。昔の人はそう思っていたのでしょうか。

まだまだ身の引き締まるような冷たい風のなか、それでもこの頃から少しずつ、少しずつ温かさを増していきます。日脚も目に見えて長くなってまいります。

一番つらい日は、一番たくさん希望がもてる日。「立春」には、昔の人のそんな思いがこめられているのかもしれない。

私共も、そんな気持ちを持ちながら、春をむかえたいと思います。

幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・1月26日 知立ロータリークラブの創立20周年記念式典があり、会長とともに出席しました。
- ・2月12日 インターシティー・ミーティングが開催されますので、来週 新美宗和幹事 2月9日の例会は休会となります。なおインターシティー・ミーティングの内容については、お手元の配布用紙をご参照下さい。
- ・緑化事業植樹については、後程担当委員会より報告があります。
- ・本日例会終了後理事会を20号室にて開催致します。



委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数71名(内出席免除者16名の内出席者12名)出席者59名

出席対象者 59/66名	出席率 89.39%
欠席者12名(病欠者1名)	前々回修正出席率 98.46%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 長田 昌昇君 新入会員の寺尾政記さんを紹介させていただきます。
- 平岩統一郎君 新入会員の寺尾正史さんを紹介させていただきます。
- 木村 徳雄君 第50回碧南市民スキー大会が車山高原にて無事に終わりました。碧南市の保養所を利用して永く大会をしてきましたが、市車山山荘が今期限りで営業を終了しますので、来年から新しい場所で開きます。宜しくお願ひします。
- 山中 寛紀君 ザックジャパン、アジア杯優勝に心踊らせるところです。サッカーアジア杯の話で盛り上がりたい気持ち一杯ですが、本日は私のつたない話にお付き合い頂き済みません。
- 榊原 健君 ついにやりました。アジアカップ優勝。かのカタール、ドーハの地で不幸な歴史を塗りかえました。勝ったチームが強いのです。
- 黒田 泰弘君 先日の新年会にて、菅原さんに大変お世話になりました。
- 杉浦 保子君 初めてロータリー俳壇に載せていただきました。神社でよそのお子さんの姿を見ていてできた句です。

〈親睦活動委員会〉

会員誕生日

3日 藤関 孝典君 5日 森田 雅也君 5日 新美 雅浩君 13日 澤 徹君
14日 堀 敦君 16日 平岩 辰之君 18日 植松 敏樹君 26日 伊藤 正幸君

奥様誕生日

1日 中根 佑治君の奥様 澄恵様 5日 新美 雅浩君の奥様 美由紀様
15日 新美 惣英君の奥様 直美様 20日 石橋 嘉彦君の奥様 里美様

結婚記念日

11日 平岩統一郎君・和恵様 33年 11日 新美 宗和君・雅代様 31年
26日 榊原 健君・陽子様 35年 28日 長田 銑司君・美代子様 48年

入会記念日

2日 寺尾 正史君 2日 寺尾 政記君 10日 服部 弘史君 10日 大竹 密貴君
27日 杉浦 栄次君

クラブフォーラム

「ポリオプラスについての私見」－最近の感染症の話題を含めて－

国際奉仕委員長 山中 寛紀

今月は国際奉仕月間ですが、すでに昨年12月に地区国際奉仕委員長の黒田さまにご来会いただき国際奉仕についてお話をいただきました。

本来ならば外来講師をお呼びしてご講演いただくところですが、何分その方面に疎いため適当な講師を探すことができませんでした。そこで、出来の悪い委員長の私からお話をさせていただきますので少しお付き合いのほどお願いします。



国際ロータリー（以後：R I）が以前から力を入れてきた事業のひとつに「ポリオプラス」があると思います。

本日はこのポリオプラスについて少々私なりの考え、私見を述べさせていただくとともに、時まさにインフルエンザ流行の真最中でもあり最近の感染症の話題も少し国際奉仕委員会との絡みの中で話したいと思います。

まずポリオの話から。ポリオすなわち一般的に小児麻痺とは、正式名を日本語で急性灰白髄炎と言います。これはポリオウィルスが口から感染して起こる病気です。一般にこのウィルスが感染してもすべてのヒトに麻痺が起こるわけではありません。ごく一部感染者の0.1～2%に麻痺が見られます。そして、この病気には治療法はありません。したがってこの病気を起こさないため、感染させないためにワクチンを投与します。これがポリオの予防接種です。具体的にはポリオ生ワクチンを口の中に投与して行います。

理論的にはこのワクチン投与を世界中のこどもに漏れなくすれば、世界からポリオをなくすことができます。そこで、この世界的撲滅をねらって行われているのがポリオプラスとこれまで思っておりましたが、この事業は一体いつから行われているのでしょうか。

インターネットに記載された2760地区ロータリー財団の記事によれば、1978年R Iとフィリピン政府が協力して現地の児童にこの予防接種をしたプロジェクトがそのはじまりと言われているようです。

1985年R Iはポリオ・プラス・プログラムを設けてポリオとともにハシカ・ジフテリア・結核・百日咳・破傷風の5つをプラスして同時追放を目的としたためポリオプラスと呼んでいましたが、現在ではそのプラスの意味は当初と変わり、世界的なポリオ撲滅運動がもたらした遺産のことを

示しているそうです。

このプロジェクトにより世界中からポリオをなくすことは出来るのでしょうか。

それはかなり難しいのではないかと私は思います。

なぜならば、アフリカや東南アジアの一部ではまだまだ根絶にはほど遠く、ポリオの流行が見られる国があります。少し古いデータですが、WHOによれば2000年末にポリオの根絶がみられない国は20カ国あるそうです。

いわゆる低開発国においては国内での紛争や経済的な状況、あるいは識字率の低い貧困層を中心に十分な啓発が困難であり、予防接種事業が充分行きわたらないことや、根絶を目指すためのワクチン接種事業の継続に対する海外からの資金援助の面やマンパワーなどによる理由も挙げられると思います。

さて、本年度から国際奉仕委員会に新たに識字率向上委員会が設けられました。昨年7月に行われた地区国際奉仕委員長会議において鈴木委員長からは、識字率の低下により低開発国でとくにエイズの感染が問題になっていることを指摘されました。

この識字率低下と性感染症予防の認識欠如との間には確かに密接な関係があると思われます。

現在問題となる性感染症としては、勿論前述のエイズのほかにB型肝炎とヒトパピローマウィルス感染症の3つがあげられると考えます。

そこでまずエイズ（HIVウィルス感染症）についてですが、WHOの2007年のデータでは、世界におけるHIVの生存感染者の推計総数は3,220万人としました。また、この感染者は南部アフリカやアジア諸国を中心に漸増を続けているのが現状です。その一方で、年間の新規感染者数は300万人を越えていた1990年代後半をピークに減少し、2007年は250万人程度と推定されています。

さて、日本での現状はと言えば、先進国の中で唯一この感染者が増加の一途をたどっています。エイズ動向調査委員会の報告によれば2006年の新規HIVウィルス感染者とエイズ患者の数は、それぞれ952人と406人で、そのうち80%以上を日本人男性が占めており、その約80%は性的接触による感染だとのことでした。

次にB型肝炎についてです。

このウィルスは血液を介して感染します。現在わが国でも社会的に問題になっているのが、過去の予防接種における針の使い回しによるB型肝炎感染による訴訟です。

しかし、意外に知られていないのが性感染症としての問題です。

このウィルスの感染力は非常に強く僅か1億分の1mlの血液成分でもヒトの体に入れば感染させると言われています。従って少しの傷でも皮膚にあればそこにB型肝炎患者の血液が接触することにより感染してしまいます。B型肝炎の恐さは、感染を受けたごく一部のヒトですが劇症肝炎により命を落としたり、一旦感染すると一見治癒しても将来また重症再発することがあります。また肝臓がんの原因にもなります。

3つ目はヒトパピローマウィルスです。

今わが国で20代から30代の女性が罹患するがんで最も多いのが子宮頸がんです。この子宮頸がんの原因になるのが、ヒトパピローマウィルスであり、約100種類以上あるこのウィルスの内、16型と18型、その他33・52・58の計5型の持続感染が子宮頸がんを引き起こします。したがって、このウィルスに感染しなければ子宮頸がんにかかることもないわけです。日本では1日に約10人の女性が子宮頸がん死亡していると言われます。

この1月から殆どの全国の市町村において、期限付きの緊急事業として公費助成による子宮頸がんワクチンの予防接種が始まりました。対象は現在の中学校1年から高校1年までの女子生徒です。なお、このワクチンはすでにこのウィルスに感染してしまったヒトには効果がありません。また3回の予防接種の効果持続は長くても10年以内と言われております。

さて、最後に冬のこのシーズン全国的に流行するインフルエンザについてです。

昨年は新型インフルエンザがほぼ全世界的に流行しましたし、わが国でもパンデミック、いわゆる感染爆発が起きました。当碧南市でも小中学生の約半分がこのインフルエンザに罹患したようです。

インフルエンザウィルスには、A型とB型がありますが、とくにA型では、その構造からヘマグルチニンとノイラミダーゼという成分がありこの頭文字のHとNそれぞれにHは16種、Nは9種あります。昨年大流行した新型インフルエンザはA型のH1N1型のものでしたが、幸い弱毒性であったため、高い死亡率はなくほっとしたところです。

しかし、この冬九州のみならずつい最近では豊橋市でも見つかった鳥インフルエンザについては、近い将来おそらくわれわれ人間にも感染が拡大するかもしれないと恐れられている、高病原性のものでした。これはA型でもH5N1です。これまで東南アジアや一部のアフリカそしてエジプトなどで感染した鳥（主に鶏）からヒトに感染し、感染したヒトの殆どは死亡しています。

よってこれは絶対に守っていただきたいのですが、死んだ野鳥を見つけたら絶対に近づかないで下さい。万が一にでも鳥からこの高病原性インフルエンザが感染してしまったら50%以上の確立で助かりません。

終わるに当たり、ひとつ碧南市医師会の宣伝をさせていただきます。

当医師会では以前から会員専用サイトにて市内の小中学校の冬期欠席者人数を集計したり、協力できる会員から自院の医療機関でのインフルエンザ患者数を表にしたりしておりました。

しかし、今期からは医師会のトップページに日々の市内でのインフルエンザ発生状況を一般市民の皆さまにもご覧いただけるよう掲載しております。

もしもご興味ございましたら一度覗いてみてください。

以上つたない話で恐縮ではございますが私からの卓話とさせていただきます。

ご静聴いただきどうもありがとうございました。

次回例会案内 平成23年 2月23日（水）

卓話「中小企業と弁護士について」

倉内法律事務所 倉内充雄氏